教育のつどい大阪2008（第58次大教組教研）分科会特集

語り合った子どもの成長、豊かな学力とは

教育のつどい大阪2008（第58次大教組教育研究集会・三島ブロック開催）は10月25日の全体集会に続き、11月9日に教科別分科会（会場・高槻市立一中）、16日に課題別分科会（会場・茨木市立天王中）が開催されました。教研集会3日間の参加者はのべ900人。分科会には青年教職員から寄せられた30本のレポートをはじめ165本のレポートが報告され、現場での豊かな教育実践・教育活動をもとに学びあいました。また11月9日には「教育フォーラム・未来をひらく豊かな学力とは」が開催され、どの子も大切にされ、ゆたかな学力と希望はぐくむ教育のあり方を語り合いました。

教育フォーラム　学校を子どもたちの学び合いの場に

パネリストの発言

〝生きる力〟〝未来への希望〟につながる学力

藤谷みずえさん（学生・仮名）

私は工業系の大学に通い、実験・実習をレポートにまとめる学習をしていますが、理論的な部分の組み立てがうまくいきません。思考の過程がなく答えをおぼえる中学校での学習のあり方、高校でも結局〝受験対策〟の勉強が中心だったことが影響しているのではないか、と思います。同級生のなかには、大学に入ることだけが目的であったため、入学した時点で燃え尽き、目標がなくなり、何をしてよいかわからなくなっている人がいます。また大学で技術を身に付けても、今の経済状況のなかでそれを発揮できる仕事が見つかるのか、学生は不安に思っています。展望や希望がなければ、学ぶ意欲も湧いてきません。

子どもたちに〝安心〟と〝あこがれ〟を

大崎さやかさん（父母・茨木市在住）

学校からの便りのなかに「早寝・早起き・朝ご飯」とありました。私は仕事で帰宅が夜の10時になることもあり、努力はしていますが〝学校の要求〟に十分応えられているとは思えません。画一的なスローガンは結局、親にとっては重荷となります。学童保育に関わるなかで子どもたちの様子を見ていますが、授業時数が増え余裕がなくなり、競争が強まるなかで、ますますストレスをためこんでいるのではないかと心配しています。子どもたちは安心感や大好きな友だちのあこがれなど豊かな人間関係のなかで育っていくのだと思います。点数ばかりが学力ではないと思います。

平均点ではあらわれない〝学びの質〟

岩根裕紀子さん（吹田・南小）

昨年担任した5年生算数の少人数指導では、習熟度別でなく単純分割にしました。全員が発表できるメリットを大いに生かし、グループ学習で子ども同士の教え合いの時間をつくり、〝共同の学び〟を大切にしました。また〝生活と結びついた学習〟を意識し、算数の「割合」の授業では スーパーの割引セールを素材にするため新聞チラシを活用し、家庭科の「栄養3色」では〝焼きうどん＝うどん・野菜・肉〟の調理実習でワイワイ学びあいました。橋下知事は全国学力テスト結果を利用し競争を強めようとしています。しかし〝学びの質〟こそ求められるのであって、それは平均点だけではあらわれないものです。

真の学び保障する学校づくりを

福山誠壱さん（高槻・7中）

私は数学教師ですが、〝なんで数学、勉強するの？〟と生徒からよく聞かれます。「どうしてそうなるか」を考えることが重要で、結論だけ憶えさせる学習では意味がありません。

一方で中学校の授業は、高校入試の影響を強く受けることも現実問題としてあります。そのため数学でも計算力の定着が目的となり、反復練習が求められる傾向を生んでいます。また〝学力調査の平均正答率を上回る〟という目標が職員会議で提案されるという状況も生まれています。公立中学校のあり方について、いま真剣な議論が求められているのではないでしょうか。

学校は民主的な人格はぐくむ場

深尾英一さん（府立芥川高）

府立高校では特色づくりが叫ばれ、クラブの実績や受験指導が重視されてきています。〝多様化〟路線で共通教養がないがしろにされ、〝勉強〟が競争社会のなかで生き残るための〝手段〟として歪められてきています。「本来の学力とは」「青年期教育とは」など、いまこそ根本からの議論が必要ではないでしょうか。知識や技術を身につけることと同時に、自主的・自治的な活動のなかで生徒たちは育っていきます。行事などで共通の目標に向かって創意工夫をし、とりくみを通して人間関係が豊かに育まれます。高校教育の未来をひらくため、その意味をあらためてとらえなおす必要があります。

子どもに劣等感は〝逆効果〟…習熟度別学習　パネル討論より

国や大阪府が推進する習熟度別授業。「子どもたちの学習のつまずきは、10人いれば10通りあるわけで、習熟度別とひと言で片付けられません」と語る岩根さん。「〝できる子・できない子〟に固定化することや、そのなかから生まれる子どもの複雑な思いなど、現場でもっと話し合う必要がある」と力説します。

「習熟度別で子どもに劣等感を与えるのならやめたほうがいい」と語ったのは学生の藤谷さん。「無理に分けてしまい、そこで子ども相互のコミュニケーションが途絶えてしまったら、将来にとってマイナスではないか」と問題を投げかけました。

フォーラムのコーディネーターをつとめた松村忠臣さん（DCI大阪セクション代表）は、まとめのなかで次のように語りました。

「橋下知事の『勉強は訓練』という考え方は、学力競争で学校教育をいっそう歪めるもの。いま私たち教育関係者に求められている努力は、子どもの学びたいという願いに応え『みんなで一緒に学びあうことの意味』『学習集団がもつ教育力』について、子どもの成長という事実にもとづき、合意を積み上げていくことだと思います。どの子にもゆたかな学びを保障するため、力をあわせましょう」

子どもも〝意味ないやん！〟…全国学力テスト　フロア発言より

フロア発言で全国学力テストが行われた後の子どもの日記を紹介したのは、小学校教員の甲斐真知子さん。「テスト中は（過呼吸で）息がしにくかった」「自分がこんなにできなかったのかと苦しかった」など子どもたちの赤裸々な声が綴られていたと言います。また「結果が数ヶ月後に返ってくるテストなんて意味ない」という声が多く、テストを返却した翌日の日記には、「結局平均点はできない子がいるから下がるんや」という文も。「テスト結果を全国平均以上に引き上げる」と公言する橋下知事。「子どもたちは与えられた目標では決してがんばりません。子どもの気持ちをわかろうとしない人に、教育を語る資格はありません」と甲斐さんは言葉に力をこめます。

生活指導分科会　「寛容から安心へ」

山田　悟朗さん（松原・松原中）

私は何年か前に、大阪教育文化センターで2ケ月に一回実践報告をするという機会を頂きました。現在進行形の報告をしていくということで、色々なアドバイスを頂きながら進めていった一年でした。報告の中でも中心は〝学年一の乱暴者〟と言われていたAくんです。中学1年生の後半くらいから友だちとの間に暴力事件が何件かあり、授業にも集中できなくなっていきました。高校生などとの付き合いがあり、喫煙もしていました。私は一年間の見通しを持って、段階を踏んで、継続的に何かできたかというと自信がありません。Aくんに対しても、厳しく迫ることもできなかったし、願いを読み取って受け止めることも中途半端になってしまったのではないかと反省しています。しかし、その報告の中で印象に残っている、そして私自身も手ごたえを感じた出来事がありました。

「先生、安心したら眠気がきた」

2月の終わり頃のある日のことです。登校しているはずのAくんが教室にいないとの知らせを受けて探すと、彼は一階の廊下を歩いていました。私が後ろから歩み寄っていくと彼は少し歩みを速めました。たぶん教室に戻れと言われると思ったのでしょう。私はしばらく追いかけずに後ろを付いていきました。彼は校舎の端まで来ると、スリッパのまま校庭に出ました。私が下足箱から彼の靴を取ってきて後ろを付いていくとプールの前で止まりました。私は、彼が2学期のときのように私に突っかかってきたり周りの物を蹴り倒したりするかとちょっと心配しましたが、Aくんはじっと前を見つめていました。「とりあえず靴をはきいや。どうどうやで」と私が言うと、靴とスリッパを見比べています。そのまま動く様子もないので私が近寄っていって彼の靴を置くと、しばらく眺めた後履き替えました。

プールの壁に寄りかかりながら二人で並んで座りました。「なあ、やっぱり教師は苦手か？指図されてるって感じか」と私は話しかけました。私は、彼にとって学校はどういう場であるべきなのかのヒントが欲しくて話しかけたのだと思います。「教室とか、相談室とか、帰るとか、選択肢で選べっていうのがいやなんか？」とまた私が言うと、Aくんはしばらく黙っていましたが、そのうちうつむきました。「先生、眠いねん。生徒相談室開けて。安心したら急に眠気がきた」と彼が言いました。私は彼が何で「安心」という言葉を使ったのか、何に対して「安心」したのか考えました。Aくんがそれまで「安心」していない状態だったとすれば、それは学校や教師に対しての警戒感や緊張感のようなものではないでしょうか。敵地に乗り込むつもりで、「どうせとの教師も俺を見るたびに嫌な顔をするか注意をするだろう」と身構えながら登校したAくん。その警戒や緊張が私の言葉で何かしらほぐれた部分があったのだろうと思いました。

ひとりの人間として尊重したい

この出来事の後Aくんが私に完全に心を許したわけではありませんが、少しずつ一緒に勉強する時間を作っていくことができました。一年間を通して、厳しく迫るような指導はあまりできませんでしたが、できるだけ一人ひとりの人間として尊重すること、皮肉や文句を言わないこと、彼らの話をちゃんと聞くことを続けてきました。その結果Aくんが「見捨てられていない」と思ってくれたのならまだましかなと思います。ちなみに彼は中学を卒業した後も時々顔を見せに来てくれています（つい先日も「赤ちゃん生まれたんやって？おめでとう」とお祝いを言いに来てくれました）ので、どうやら「この教師には見捨てられた」とは思っていない様子です。

子どもと教育・文化を守る大阪府民会議が作製、広く府民に届けよう

NEWS FLASH

11・13中央決起集会

「なくせ貧困！守れ雇用！生活危機突破！」を掲げ、5500人が参加（大教組から8人）した中央決起集会が開かれたほか、大阪府内でも職場集会や府民宣伝がとりくまれました。（11月13日　日比谷野外音楽堂）

日米合同演習反対・あいば野大集会

雨のなか全体で700人、大阪から100人（大教組16人）が参加し、デモ行進では「アメリカ軍はあいば野に来るな」「アメリカの戦争に自衛隊を送るな」「人殺し訓練やめよ」とシュプレヒコールを響かせました。（11月24日　滋賀県・高島市）

あおぞらプロジェクト大阪

ぜんそく患者が増えつづける大阪で、大気汚染被害者救済制度づくりと環境基準強化をめざし、同会が発足。「発足のつどい」には100人が参加し、ぜんそく被害者実態調査の成功を呼びかけるアピールを採択しました。（11月25日　大阪民医連ホール）

ピースチャレンジャー8号　憲法署名100筆に挑戦

〝憲法守れ〟の世論の広がり　街頭宣伝で実感

谷口しのぶさん（寝屋川市立西小学校）

「憲法署名は職場やご近所だけでなく、元教え子の保護者にもお願いしました」「元保護者からすぐに名前がぴっしり埋まった署名用紙が戻ってきて、すごく勇気づけられました」と語る谷口さん、100筆を集めるのはあっという間でした。寝屋川市内の多くの小学校では平和学習を積み上げ、広島への修学旅行にとりくんでいます。谷口さんが勤務する学校もその一つで平和教育を大切にしています。谷口さんも毎年子どもの発達段階に合わせ教材を選び、平和学習にとりくんでいます。昨年3年を担任した時、文学教材「夜のくすのき」にとりくみ、はじめて知る「原爆」の真実に子どもたちの眼も真剣でした。

谷口さんは長年女性部運動に参加し、現在大教組女性部の役員をしています。大教組女性部は毎月一回、憲法宣伝にとりくんでいます。ホームグラウンドの上六交差点だけでなく、横断幕と署名用紙を抱え府内各所で〝神出鬼没〟の宣伝をしています。「町の雰囲気が変わってきました」と語る谷口さん。「世論調査でも〝憲法9条守れ〟が圧倒的多数となってきています。街頭に立つと実感します」と確信を深めます。

谷口さんのジャケットの襟には、寝屋川の女性団体が作製した〝九条バッジ〟。大教組女性部のスローガンは〝しなやかに、したたかに。それを身でもって実践する谷口さんたちの女性パワーが、平和な未来を切りひらきます。

外国語教育分科会

連載　改訂学習指導要領を考える―③

小学校　国語

1年生がメモとれるの？

南山　巌さん（河南町・大事小）

「一年生がメモなんかとれるの？」教育課程の説明会でた感想です。今回告示された学習指導要領の1・2学年では「紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること」ということが指導事項に書かれています。一年生はなんでも思ったことや気づいたことを書きます。それを教室で読みあい語り合うなかで「書く力」「綴る力」を身につけていくのだと思います。「自分の言いたいことをまずメモにまとめなさい」などと指導したら「固まる子」が続出するのではないでしょうか。

それだけでなく、文科省は今回の改定で言語活動を細かく明示していますが、そこには技術を教えんとで力をつけさせようという狙いが見えてきます。今国語教育で大切なことは教え込みの知識や技術ではなく、教室の仲間とともに伝え合い考えあう中で身につける「国語力」なのではないでしょうか。

小学校　体育・保健体育

体力づくり、意欲・態度にかたよる

佐々木盛文さん（河内長野・楠小）

「体育」の指導要領改訂では、70年代に「体力づくり」で、多くの体育嫌いを作り出し、「楽しい体育」路線では、「できないのも個性」と「できること」を放棄してきました。そして今回の改訂は、また「体力づくり」と「態度」がクローズアップされています。こんにちの「学力問題」と連動して、体育では「体力」と言わんばかりに、今年度から全国体力テストも実施されました。内容については、それぞれの技について細かく明示され、〝しなければならない〟ことが押し出され拘束性が増しています。

「公正」「協力」「自己の最善を尽くす」態度や、「自己の役割を果たす」意欲などが示され、道徳教育との関連も随所にちりばめられています。「武道」の必修化も〝態度を育てる〟ためのものとして出てきているようです。みんなでルールを守る意味や武道を行う意味などを子どもに培い、態度主義に陥らないような豊かな内容をしっかりもって授業に望んでいくことが必要です。

教育のつどい2009（全国教研レポート）

分科会名	レポーター	職場名	レポート名
国語教育	三野　和生	東大阪市立加納小	「夕鶴」（木下順二）の授業
外国語教育	矢寺　秀樹	守口市立蒲窪中	英語科指導における集団づくり
社会科教育	浅井　義弘	府立泉陽高	日本近現代史でなにを教えるか
数学教育	川上　正寿	八尾市立龍華小	「わかってできる」授業をめざして一教育課程自主編制の取り組み
理科教育	富永　一俊	大私教・千代田高	創作実験43年
美術教育	松下　順一	交野市立長宝寺小	4年5年6年の図工の取り組み
音楽教育	宮崎　真一 安宅　由実	吹田市立岸部第2小 富田林市立久野喜台小	歌うなかで子どもが育つとは
技術・職業教育	赤木　俊雄	大東市立諸福中	生物育成は袋栽培から一無農薬で美味しい野菜
家庭科教育	新谷仁奈子	大私教・英真学園高	保育分野に取り組んで
体育・健康・食教育	遠藤　裕子	吹田市立吹田第1小	調理員さんと取り組んだ食育
生活指導・自治的活動	池田　達之	堺市立八上小	子どもたちを主役に学校行事をいかした学年集団づくり
発達・評価・学力問題	川崎　真澄	豊中市立刀根山小	基礎学力を鍛え、できる喜び学ぶ意欲を！
障害児教育	加藤　由紀	茨木市立西陵中	劇「西遊記」に取り組んで
	井関　美季	府立和泉支援	みんないっしょに集団での生活を大切に
幼年教育と保育	木村　順子	東大阪市立小阪幼	集団になじみにくい子どもや保護者への関わりについて
思春期・青年期の進路と教育	小西　順治	府立春日丘(定)高	雇用と貧困を考える一定時制の現場から一
両性の平等と教育	松崎　康裕	府立門真なみはや高	命を大切にする授業「できちゃった婚・あかちゃんポスト・デートDV」

分科会名	レポーター	職場名	レポート名
子どもの人権	谷口　昌暁	民権連	「学力等実態把握差し止め等請求事件」について
平和と国際連帯の教育	常本　一	府立和泉総合高	三年目を迎えた和泉総合高校「平和学」
民主的な学校づくり	嵯峨山　聖	大私教・千代田高	いじめと貧困をのりこえて
父母地域	岡田　信行	高槻教文センター	父母と教職員を結んで14年一高槻教育文化センターのあゆみ一
父母地域	長尾　ゆり	府立夕陽丘高	大阪の高校生に笑顔を一「大阪の高校生に笑顔を下さいの会」の取り組み
教育条件	小豆島悦子	大阪市立長原小	貧困と格差から子どもと教育を守る
環境・公害	天野憲一郎	大阪市立今宮小	生活科・総合の学習の時間を活用した環境学習への取り組み
文化創造と教育	小林　義孝	府職労文化財保護分会	弥生文化博物館・国際児童文学館を守れ!!一大阪の文化施設廃止問題から考える
教育課程	松井　登	東大阪市立楠根中	教育課程編制において父母・教職員の合意をどうつくりあげていくか
不登校・登校拒否	森川　紘一	大阪教文センター	登校拒否・不登校の子とまわりの子は共感しあえる・つながりあえる一大学生の体験・想いから見えてくるもの
不登校・登校拒否	芦崎　司	登校拒否を克服する会	登校拒否の子どもと進路
生活科	細川　元子 成瀬万里子	堺市立大泉小	おおきくなったよね